


たんぽぽ



vol. 51

平成17年7月発行

発行者 放送大学

富山学習センター

責任者 所長 小谷 仲男

新任のご挨拶

客員助教授 荻原 洋

3月末に御退官されました加瀬正二郎先生と交代する形で、富山学習センターの客員スタッフの一員として働かせていただくことになりました。現職は富山大学教育学部（10月から「人間発達科学部」に改組）の専任教員で、英語教育を専門としています。信州に生まれ、大学時代を仙台で過ごし、富山に来てもう20年以上が過ぎました。子供たちは全員native Toyamarianです。

大学生の頃は英文法を勉強していました。当時はチョムスキーによる生成文法の全盛期で、英文法といっても理論中心の難解なものでした。理学部の先生が文学部の学生相手に「コンピューターと言語理論」というような授業をしていた時代です。内容は私には全く理解できませんでしたが、生来理屈っぽいこともあって、文法の勉強は私には楽しかったように思います。その後、縁あって富山大学の「教育」学部にお世話になることになったため、少しずつ英語教育に関心が移り始め、最近は主として言語習得、特に第2言語習得について勉強しています。

第2言語習得の研究は、学習者の視点に立ち、学習の「プロセス」そのものに焦点を当てていることが多いため、教師にも「学習の支援者」あるいは「学習カウンセラー」といった役割を期待しているものが少なくありません。それが日本型の学習（教育）習慣に合うものかどうかはまだ分かりませんが、中学校で既に7割が「英語嫌い」になってしまうという厳しい現実を目の前にすると、言語習得研究の成果がもっともっと英語教育の現場に取り入れられたら良いのにと 생각합니다。

最後に、何を書いたらいいのか迷っていた時にちょうど目に留まった文章がありましたので、それを引用させて頂き、新任のご挨拶にしたいと思います。大学の新入生に向けたメッセージの一節です。“I would like to let you know that I and the other professors are here to help you. But I must remind you that you are the key player in your education.”（皆さんに知っておいていただきたいのは、私も他の先生方も皆さんを支援するためにここにいるのだということです。ただし、皆さんの勉学の（成功の）鍵を握っているのはなんといっても皆さん自身なのだということも忘れないで下さい。）

微力ではありますが少しでもお手伝いできればと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。